



## 広く伝わる「言葉」と「表現」



### 広がる表現、閉じた表現

**坂井** 若木さんのおじいさんのポートレート写真集「Takuji」、とてもパーソナルな表現でいいです。

**若木** ありがとうございます。中学生の頃から、04年に祖父が他界するまで20年間撮り続けてきて、「Takuji」はその前半の10年分に当たります。

**穂村** 僕も拝見しました。写真集をテーマにした映画も撮られていますね。

**若木** 昨年「いとこいし」の喜味こいしさんに祖父役を演じていただきました。自分



がそうやって祖父を撮り続けてきたように、いろんな人に、身近な人の話や、個人的な話を書いてもらおうと思って、並行して同人誌的な活動もしています。5年前に自分で出版社を立ち上げて、「youngtreepress」という雑誌を年2冊、これまでに9冊発行しました。ただ、こちらは最初から10冊と決めていたので、今年12月に発行する最終号で、プロジェクトを終了する予定です。

**坂井** 写真家としてのお仕事だけではなく、幅広い表現をされているんですね。コマースのようなものは？

**若木** 広告の仕事もたまにあります。普段はファッション誌の仕事が多いです。そう

いうところで得たお金を、自分のやりたいことに回している状態で…。後者がもう少しお金になると楽になるんですけど(笑)。

**穂村** それを言うなら短歌なんて、お金にならないことが前提ですよ。短歌雑誌の原稿料は、1首100円。初めてもらった10首の仕事は源泉税をひかれて900円振り込まれて、ある意味、衝撃でした(笑)。

**坂井** 100円ってすごい…。広告界の大御所コピーライターだと、同じ文字数で1本1000万円ぐらい掛かりますよね。

**穂村** そうなんです。同じ文字の作業でも、持っていく媒体によって、価値や金額がまったく変わってしまう…不思議ですよ。

**若木** 下世話な話で恐縮なんですけど、インターネットでお二人を検索すると、ユーザーに閲覧されるアクセス数が多いですよ。でも僕のサイトはそれほど伸びていないんです。その差がどこにあるのかを、今日聞きたいと思っていたんです。どうしたらもっと広く、多くの人に伝わるようになるのか。

**坂井** それは、広がったほうがいいのかという前提ですか？ 僕はコアな層に届けるきめの細かい作品というの、良いと思うけれど。

**若木** 自分が感動したものは、できれば多くの人に届けたいと思っています。

**穂村** 短歌も、誰も読んでいませんよ(笑)。僕はたまたまエッセイを書いたり翻訳をしたり、隣接ジャンルでも活動しているから、多少広がったというのではありませんけれど。

**若木** なんとというか、自分のなかでバランスが悪くて、「youngtreepress」は制作費100万円かけて必死でつくって、でもぜんぜんお金にならず赤字なんです。一方では、ひとつの仕事のギャラが100万円だった



写真: 山本 浩一

Wakagi Shingo

Homura Hiroshi

Sakai Naoki

する。穂村さんの先ほどのお話ではありませんが、同じ作業でも価値が全然違ってしまふのが落ち付かないんです。

**穂村** いいじゃないですか。稼げるところで稼いで、やりたいことにまわすって、志を感じて格好いいし、ある意味生産的だと思いますけど。

**若木** そうなんです。感情の部分で納得がいけないんです。自分としてはすごく感動して作ったのに、あまり広がらなかったり、自分ではあまり満足していない作品のほうが、世間的には評価が高かったりする。自分の力以外の影響が評価につながると、無力感を感じることがあるんです。もっとも写真に限らずどんな作品でも、話題性のあるもののほうが表面に出やすいのは確かですし、世の中の人々がみんな写真に興味があるわ

けないんだから、単独の方だけで広がるものはないんだと、頭では理解しているつもりなんですけれども…。

### 世界に伝わる表現とは

**坂井** 世界的に広げるという意味で、それを史上最高に成功に導いたのはアンディ・ウォーホルです。彼は700億円の資産を遺すという、その点ではジョン・レノンすらはるかに凌いでいる。彼はスロバキアの移民の子どもとして生を受け、まず商業デザイナーから出発した。どうすれば自分のつくるものが認められるか、だけを考えて世界に影響を及ぼした。

**若木** ただそれでいうと、日本語文化と英語文化って、その違いだけでも、かなり

大きな隔たりがあると思うんです。映画でいいますと、字幕をつければ国際的な映画祭に日本語作品でも出品できますし、実際にたくさん賞も獲っています。でも英語作品だと、さほどのクオリティでなくても広がっていくような…。

**坂井** そうだとすると、英語で挑戦するしかないですね。インターネットだって英語圏の産物だし、日本語文化のサイトはイントラネットでしかない。僕のアメリカ人の友人は日本語のサイトは見ないと言っていた。

**穂村** でも写真って、そういう垣根がいちばん低いのでは？ 見ることのインパクトは世界共通というか。短歌はその点絶望的ですよ。短歌を短歌として突き詰めるには、たとえば「てにをは」と呼ばれる助詞を少しい